

## Well-beingをテーマとしたシンポジウムを開催しました

2024年7月27日（土）、3大学が主催する「ひとや地域（まち・文化・教育）の well-being に貢献する文系DX人材の育成」シンポジウムをKDDI維新ホールで開催しました。

基調講演では、EVOL株式会社代表取締役CEOの前野マドカさんが「ウェルビーイング入門」をテーマに、武蔵野大学ウェルビーイング学部長・慶應義塾大学大学院SDM研究科教授の前野 隆司先生が「ウェルビーイングと教育」をテーマに講演を行いました。

前野マドカさんは、幸せになるための因子は、「やってみよう（自己実現と成長）」、「ありがとう（つながりと感謝）」、「なんとかなる（前向きと楽観）」、「ありのままに（独立と自分らしさ）」の4つに整理できるとしました。その上で、これらの因子がバランスよく満たされることがウェルビーイングに繋がると結論づけました。

前野隆司先生は、維新胎動の地である山口において3大学がウェルビーイングの視点から文系DX人材の養成に取り組んでいることに期待を寄せているとした上で、幸せの4つの因子を用いた教育事例について紹介されました。

2人の講演に続いて、各大学の取組が紹介され、本学からは西田光一学部長が国際文化学部のDX人材育成の取組について説明を行いました。



最後に、「探究学習からPBLへ」と題した3大学の学生によるパネルディスカッションが開催され、本学からは国際文化学科3年生の松村大河さんが、昨年受講したPBLについて発表しました。

シンポジウムに合わせて、会場内に各大学の入試相談コーナーが設置され、本学も積極的にPRを行いました。



## 「SPARCサマースクール2024 in 軽井沢」に出席しました

2024年9月23-24日、軽井沢プリンスホテル ウェストにて「SPARCサマースクール2024」が開催され、本学から吉村副学長、国際文化学部の藏田先生、SPARC推進室の末本先生が出席しました。

本会はSPARC事業の中心的な課題であるPBLの推進に関する勉強会として開催されたもので、SPARC事業の採択された6県の大学関係者が集まり、それぞれの取組に関する情報交換と議論を行いました。

やまぐち共創大学コンソーシアムを代表して、吉村副学長が、「やまぐち3大学連携におけるPBLの取組み」と題して、コンソーシアムのSPARC事業の枠組み、PBLを実施するための体制、2023年度のPBL終了後に実施した学生および連携先へのアンケート結果などを紹介しました。

その他、山梨大学の杉山歩先生が「Miraiプロジェクト—フューチャーサーチ」と題して、9年間にわたって大学の枠を超えた地域PBLを実施してきた事例を紹介しました。連携先の企業・自治体は、貸衣装や観光、ジュエリー、F M放送局、和紙、飲食など多岐にわたっているとの説明が印象的でした。

奈良女子大学の藤田盟児工学部長は、「工学部の教育方針とPBL」と題して、「女子大に工学部を新設した」として注目される奈良女子大学工学部の設計思想やカリキュラムの構成、支援体制などについて紹介しました。

最後に山梨大学の門野圭司先生が「PBLにおける『学修成果の可視化』について」と題して、PBL科目（計14単位）での学修成果の可視化に関する考察を説明しました。

これら各大学の取組紹介に加えて、開催地である長野地域を想定したワークショップ形式のグループ討論も実施されました。2日間の研修を通じて、全国のSPARC採択校での取組み状況を共有できたほか、PBLを持続的な実施するに当たっては、企業・自治体との関係を構築するコーディネーターの確保が重要であることを再認識しました。



## 深化する韓国・慶南大学校との交流

### ～「現場密着型地域人材育成産学研連携教育課程イノベーション」～

昨年に引き続き、7月31日に慶南大学校から4名の先生をお招きして、国際文化学部FDを実施しました。このFDは一般社団法人やまぐち共創大学コンソーシアムの後援をいただき、山口大学、山口学芸大学からも参加がありました。

「海外の先進的産学協力の事例研究とDXによる地域課題解決（PBL）の探究」をテーマに開催した今年のFDでは、慶南大学校のLINC3.0事業団イルモリ教育団長の朴恩姝先生ほか2名が発表し、国際文化学科の岩中学科長が本学のPBLの取組を紹介しました。

最初に朴恩姝先生が「産学協力先導大学育成事業（LINC3.0）の主な成果とイルモリ士官学校でのデジタルヘルスケア運営事例」を説明しました。続いて鄭恩姝先生が「問題解決能力向上のためのPBL教授法と高校連携PBL適用事例」を、さらに李眞姫先生が「イルモリ教育実現のためのファシリテーション教授法」を説明しました。高校連携PBLといった取り組みは、今後の方向性を示唆したものとして興味深い発表でした。



また、10月29日（火）には、慶南大学校において「2024産学協力人材養成国際カンファレンス in 慶南大学校」が開催される予定です。本学から田中学長、国際文化学科の林先生、吉永先生が参加し、田中学長が本学のSPARC事業の取組について、吉永先生が「文系人材としての新しい教養：テクノロジーコミュニケーター」と題して、本学の文系DX人材育成について発表を行います。

## 令和5年度地域活性化人材育成事業(SPARC)外部評価委員会

SPARC事業の実施に当たっては、外部評価委員会を毎年開催することとしています。今年度は9月4日に開催されました。

評価委員会では令和5年度に実施した事業全般の説明を山口大学 松野副学長、葛副学長が行った後、各大学の取組について説明しました。本学は、田中学長から山口県立大学が目指す「文系DX人材」の育成、国際文化学部の再編・新学科設置、SPARC教育プログラムなどについて説明しました。

経済団体等の委員からは、「中小企業でのDXという言葉に対する認識と人材ニーズにずれがあるので、大学側もこの認識の差を理解した上でPBLについて考えた方がいい」、「授業時間の統一など大変な部分もあるが、地域で活躍する人材が一人でも多く出ることを期待する」、「企業で求められるのは、率直な人、企業に馴染みやすいこと、メンタルが強い人材である。DXをしっかりとやりながら、メンタルに強く、明るい人材が社会に出て活躍することができるよう大学生活を送ってほしい」といった意見ができました。

今後、これらの意見に十分留意しながら、本学のSPARC教育プログラムを実施していきたいと思っております。

### 編集後記

長かった夏季休業も終わり、後期の授業が始まりました。今年度の折り返し点を迎え、いよいよ半年後に迫った本格的なSPARC教育プログラムの実施に向けて、私たちSPARC推進室の業務も多忙を極めるようになった気がする今日この頃です。

コンソーシアムでは連携開設科目を円滑に実施するために、3大学の学年暦や授業時間割などの統一、連携開設科目実施に当たったの規程の整備、3大学のシラバスを作成する上でのルールづくりなどに取り組んできました。これからは、昨年度と今年度の連携開設科目の試行を通じて明らかになった課題の整理や改善を進め、来年度の本格実施に向けて準備を加速させていただきます。